

# KLIS TODAY

No.  
23

## 筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162  
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail [klis-info@inf.tsukuba.ac.jp](mailto:klis-info@inf.tsukuba.ac.jp)

### 春と夏の説明会 ～知識情報・図書館学類の魅力を紹介！～

#### 春の説明会から夏の説明会に向けて

筑波大学春の進学説明会が平成 26 年 3 月 26 日(水)～28 日(金)に筑波大学東京キャンパス文京校舎で開催されました(説明会の様子は、次のページの「春の進学説明会報告 & フォトコーナー」で紹介します)。

また、4 月 26 日(土)には、筑波大学春日エリアにて 3 年次編入説明会が開催されました。教員からの学類の特徴などの説明の後、3 年次編入の学類生・大学院生が受験準備や入学後の生活などについて説明しました。参加者の皆さんからたくさんの質問が出て、熱気のある説明会になりました。

現在、学生主体の夏の説明会のプログラムが決まり、本格的に準備を開始しています。ご期待ください！



#### 夏の学類説明会 ～授業や研究室を見学してみませんか？～

7 月 23 日(水)には筑波大学春日エリアにて学類説明会が開催されます。7 月の説明会は、本学類が授業期間中に独自に開催しており、見学は本学類のみになりますが、当日開講されている授業や複数のゼミの様子を体験することができます。また、模擬講義、キャンパスツアー、展示コーナーなどもやります。春の進学説明会で上演した劇もパワーアップして登場する予定です。詳しくは以下の Web ページをご覧ください(教育課程や入学試験の説明、学生によるパネルディスカッションや相談コーナーは 8 月の受験生のための筑波大学説明会にもあります)。

<http://klis.tsukuba.ac.jp/OpenCampus2014.html>



## 受験生のための筑波大学説明会 ～複数の学類を見学できます！～

8月23日（土）、24日（日）、31日（日）に受験生のための筑波大学説明会が開催されます。本学類と情報メディア創成学類は、8月23日（土）に筑波大学春日エリアにて説明会を開催します。8月下旬は授業期間中ではないため、授業見学はできないのですが、他学類の説明会も見学することができます。詳しくは以下のWebページをご覧ください。

<http://klis.tsukuba.ac.jp/OpenCampus14.html>（本学類）  
<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/opencampus/>（筑波大学）

## 春の進学説明会報告 & フォトコーナー

平成26年3月28日（金）の知識情報・図書館学類の説明会では、学類長、教員が本学類の特徴や入試などについて、学生が受験体験や入学後の生活などについて説明しました。さらに、学類で学ぶ内容を笑い一杯の劇にするという斬新な企画もあり、大いに盛り上がりました。



本学類の特徴を説明する学類長



宇陀則彦准教授（右）：「私ぐらいになると分類番号から大体の位置がわかるんだよ。」  
図書館員（中央）：「へー。」



先輩（右上）：『クラウド』って知ってる？  
後輩（左上）：「知ってます。日本語で……」



会場の皆さんもビブリオバトルに参加！

## 新1年生を迎えて

平久江 祐司

久しぶりに1年生の担任になって、新入生と同じように以前にはなかった新しい体験を次々としていくところです。これまでを振り返って見ると、やはりオリエンテーションやバスツアーなどは新鮮で刺激的な体験でした。2クラスの皆さんと共有した一連の体験のなかで感じたのは、今の学生たちは何と饒舌なのだろうか、という感嘆です。これはけっして悪い意味ではなく、皆の自己紹介を聞きながら一種の逞しさを感じることができましたし、無事大学生としての生活を送っていってくれるであろうという安堵感をもたらしてくれました。

ただ、こうした学生の饒舌さは、必ずしも2クラスだけと言う訳ではなく、LINE や Twitter などの普及とともに顕在化してきているようにも思えます。それは、見えない不特定多数をも対象とするコミュニケーションの日常化の帰結であるのかもしれませんが。一方、大学におけるコミュニケーションの神髄は、その対極にある一対一のコミュニケーションにあります。古くはギリシア時代のソクラテスが行った問答法などがそれです。同じ学問の道をめざす人との対話の積み重ねこそが饒舌さに奥行きをもたらしてくれるのではないかと思います。そうした一人に担任も含めてもらえたらとも思いますが、まずは学期末試験という最初のハードルを乗り越え、その後に迎える長い長い夏休みのなかで、1年生の皆さんにはぜひ実践して欲しいものです。

ちなみに、今年の1年の担任団は大変良い関係にあり、こうした対話を通してさまざまな新しい示唆を得ていることに、一担任として多いに感謝をしています。

(ひらくえ・ゆうじ 知識情報・図書館学類 教授)

## 新1年生たちの声

### 見学研修に参加して

小野 真実

入学式から3日後の4月10日。少しの不安を抱きながら始まった見学研修。まだ誰が同じクラスなのかも分からず、会話をすることがない人も多くいる集合場所から、茨城県自然博物館と千葉県立房総のむらに向かいました。結論から言うと、最初の不安が嘘のように充実した時間でした。バスの中で自己紹介とやどかり祭の模擬店の話し合いをし、女子で集まって昼食を食べ、展示されていたサバンナの動物のリアルさに驚き、房総地方の昔の建物のなかを歩いてちょっとしたタイムスリップをし、竹馬で遊び、皆で並んでラムネの一气飲みをし、たくさん写真を撮り、これから4年間一緒に過ごす皆との親睦を深めることができました。

あれから2ヶ月。研修で深めた仲はさらに深まり、バスのなかで計画を立て始めたやどかり祭も無事成功し、順調に大学生活を楽しんでいます。

(おの・ますみ 知識情報・図書館学類1年次)



## 初心を忘れずに

鈴木 優実

入学して間もなく、私たち知識情報・図書館学類の1年生と3年次編入生は、新入生オリエンテーションのバスツアーへ行きました。同じクラスの人顔も名前も分からない状態で、会話もぎこちなかったのですが、一緒に参加して下さった先輩方やバスガイドさんに盛り上げていただき、周りの人と仲良くなることができました。また、バスのなかで一人ずつ自己紹介をしたときには、出身も年齢も違う人と同じ学年・クラスで一緒に過ごすという感覚がとても不思議で、「ああ、大学生になったんだなあ」としみじみ感じました。同時に、「高校までとは違う人とのなかり」ができるのだというワクワクした気持ちも感じました。

6月に入り、大学生活にもだいぶ慣れてきましたが、あのときに感じた気持ちは忘れていません。初心を忘れずに、素直な気持ちでたくさんの人からいろいろなことを吸収していきたいと思います。

(すずき・ゆみ 知識情報・図書館学類1年次)



茨城県自然博物館、駐車場に降り立つ新1年生

## 友好を深めあった見学研修バスツアー

中村 美咲

入学式と3日間のガイダンスを終え、私たち新入生は学類オリエンテーションとして茨城県自然博物館と千葉県立房総のむらへ見学研修バスツアーに参加しました。バス内では最初にクラスの人たちと自己紹介をしたのち、先生方の自己紹介やつくばという土地や大学のお話を皆で聞き、楽しく移動時間を過ごしました。茨城県自然博物館では自然界に関する通常の展示と期間限定で行われていたサバンナについての展示を見学しながら、図書館とはまた一味違った博物館という資料展示の方法について考えました。また昼食は仲良くなった友人たちと、自分たちのことやこれからの大学生活について語り合いながら食べました。房総のむら



千葉県立房総のむら入口近くで、  
お勧めスポットなどの説明を受ける新1年生

では江戸や明治の暮らしを再現した建物と豊かな自然のなかを散策し、入学式後から張りつめていた気持ちがほぐれたように思います。大学生活という新たな一步を踏み出し緊張のなかにあった時期でしたが、同期の人たちとの友好を深めあえたかけがえのない一日となりました。

現在はずっと憧れだったつくばの地で勉学に励めることに感謝しつつ、新しい友人たちと共に、日々を全力で過ごしています。

(なかむら・みさき 知識情報・図書館学類1年次)



## ようこそ、知識情報・図書館学類へ！

榎本 祐季

春日地区新入生歓迎委員会では、例年通り、今年も新入生歓迎のための企画をいくつも用意しました。春日地区新入生歓迎委員会の企画としては、宿舍の入居手伝い、学内散歩、レクリエーション、キャンパスツアーなどを行いました。クラス代表者会議からは、大学側が企画する各オリエンテーションへの協力、新生活を応援する『かすがらいふ』の発行を行いました。また、情報科学類の新入生歓迎委員会と連携して、情報学群新歓として交流会を行いました。これは今年度で2回目となる新しい試みです。今後、キャンパスが離れていて普段あまり関わる機会の少ない情報科学類との交流機会をもっと増やすことができると思います。

私は1年前に先輩方から多くの歓迎を受け、「来年は自分が新入生を歓迎したい」と強く感じていました。こうして春日地区新入生歓迎委員会の長として、新入生歓迎企画に関われたことを大変うれしく思っています。

振り返ってみれば、どの企画も楽なものではなく、計画から当日までさまざまな苦勞がありました。教室の申請や買出しなどやるべきことは山のようにあったのですが、最初は何から手をつけてよいのか分からず、途方にくれることもしばしばでした。前年度新歓委員であった先輩に何度もお話を聞き、目の前の問題を片付けているうちにいつの間にか当日になっていたという感じです。しかし終わってみれば、新入生からたくさんの「楽しかった」という声が聞こえ、その苦勞も吹き飛ばすような思いでした。特に、学内散歩とレクリエーションの評判が良く、なかには、1年前の私と同じように「来年は自分が」という声も聞こえ、委員長の私としてはただ喜ぶばかりでした。

新入生歓迎企画は最初から最後まで多くの人の協力のもと行われました。新入生歓迎委員会のメンバーはもちろん、さまざまなアドバイスをくださった前年度委員長をはじめとする先輩方、レクリエーションの景品など、惜しみない協力をしていただいた教職員の方々。無事企画を終えることができたのもみなさまのおかげです。この場を借りて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

新入生のみなさまがこれから楽しい大学生活を送れることを委員一同心から願っています。

(えもと・ゆうき 知識情報・図書館学類2年次)



春日講堂前に集合



飲み物配布に整列する新入生

## ソコカラナニガミエル？ ～米国短期研修を終えて～

松林 麻実子

3月上旬の10日間ほど、学生たちと米国サンフランシスコに行ってきました。昨年に続いての海外研修企画で、訪問先はスタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校、サンフランシスコ公共図書館等です。この時期のサンフランシスコは雨が多く、気温も日によって大きく変わるので、けっして過ごしやすくはないのですが、それでも晴れた日のスタンフォード大学のキャンパスやバークレーの街並みはとても美しく、フィッシャーマンズワープなどの観光地は華やかです。一方、通りを一本入っただけで一気に猥雑さを増すのがこの街の米国を代表する都市たるゆえんで、そういうところは面白いなあと思います。

市庁舎2階にあるハーヴィー・ミルクの胸像を見て、「おお、ショーン・ペン！」（彼は映画でミルク役を演じてアカデミー最優秀主演男優賞をとりました）と心のなかで叫んだり（本来なら、マイノリティの闘いの歴史に思いを馳せるのが正しい態度でしょう）、アルカトラズで元囚人（！）が自伝の出版を記念してサイン会を開いているのを見て、商魂たくましさで舌を巻いたり（ここも本来は、アルカトラズの歴史に衝撃を受けるべきであるに違いありません）。米国とは、つくづく飽きない国です。

そしてこの国では、日常生活では見過ごしがちな、他者とふれ合う幸せを再確認することができます。たとえば、コンビニエンスストアで買い物をしたときに、ナイスガイな店員がとびきりの笑顔で“Have a nice day!”と声をかけてくれたりして、それはけっこう嬉しいことだったりします。

訪問先がどこも米国有数の素晴らしい場所なのは言うまでもないことで、参加者がこの貴重な機会を今後の学習に最大限活かしてくれることを心から願います。ですが、誤解を恐れずに言うなら、この研修の意義はそれ以外のところにあります。そして、それを感じとるのに語学力も学校の成績もおそらくそれほど必要ありません。とにかく行ってみて、失敗を恐れずに何でも試してみ、結果として、その人なりのきれいな景色が見えているといいなと思います。

（まつばやし・まみこ 知識情報・図書館学類 講師）



スタンフォード大学フーバータワーの展望台で（左から、野沢・青木・脇田・筆者）





市庁舎内にあるハーヴィー・ミルク像



アルカトラズ刑務所内の図書室跡

## 米国図書館見学を終えて

青木 啓

3月初旬に図書館見学のためアメリカのサンフランシスコを訪れました。スタンフォード大学図書館をはじめとし、同大学東アジア図書館、カリフォルニア大学バークレー校の大学図書館、北米最大規模のコレクションがある同大学東アジア図書館、サンフランシスコ公共図書館、サンフランシスコ公共図書館の 27 分館のひとつであるウェスタンアディションブランチ、サンノゼ州立大学の大学図書館とサンノゼ州立公共図書館としての2つの役割がある Dr. マーティン・ルーサー・キング, Jr. 図書館を見学しました。

公共図書館ではホームレスが多く見受けられましたがセキュリティにも配慮されていたり、子どものためのスペースは特に安全に配慮されていました。大学図書館も公共図書館も、役職や資格の有無によってライブラリアン、ライブラリテクニシャンなどそれぞれの技能に特化したスタッフによって運営されており、どのスタッフも自分の仕事に誇りをもって図書館に関わっているようでした。そして、利用者が安心して使えるような配慮があり、多種多様な人のニーズに合わせていたり、催し物も頻繁に開催され、多くの利用者に親しまれているような印象をもちました。

アメリカの図書館で働く日本人の方とお会いすることが多くありました。他国の文化や思想に触れることが好きな私のなかで、日本から出て海外で働くということを進路のひとつとして考えるきっかけになりました。カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館館長であり CEAL (Council on East Asian Libraries) 会長の周氏の図書館員のあり方についてのお考えを聞く機会も設けていただきました。周氏のお話にもあったように図書館員の地位向上、能動的な図書館の活動にも興味をもちました。いま、この学類で図書館について学んでいる意義についても考え直す機会にもなりました。このような貴重な体験をさせていただき感謝するとともにこれからに活かしたいと思います。

(あおき・ひろ 知識情報・図書館学類3年次)



## サバティカル ～札幌で過ごした半年間～

村井 麻衣子

筑波大学にはサバティカル制度というものがあり、3ヶ月以上1年以内の期間で、授業や会議等の業務が免除され、研究等に専念することが認められます。私は2013年4月から9月までの半年間、サバティカルを取得し、北海道大学に滞在しました。

北海道大学は、専攻している知的財産法の研究拠点です。21世紀COEプログラム「新世代知的財産法政策学の国際拠点形成」と、グローバルCOEプログラム「多元分散型統御を目指す新世代法政策学」を経て、現在は、COEプログラムの成果の継承・発展のために設立された「情報法政策学研究センター」において研究活動が進められています。私は、同センターの研究員として研究室に滞在しました。

滞在中は、大学院やロースクール（法科大学院）の授業やゼミを聴講したり、知的財産法研究会やシンポジウム、夏に開催されたサマーセミナーにも参加しました。研究室の隣の図書室には、知的財産法等（特許法、商標法、著作権法、不正競争防止法等の知的財産法や関連する法分野）に関する書籍、論文集、雑誌、外国の書籍等が、豊富に備えられており、充実した環境で研究を進めることができました。知的財産法に関する資料についてはかなり網羅的に収集されているため、研究を進める上では、この図書室の資料を利用すればほぼ困ることはありませんでした。その他、北海道大学の附属図書館や法学部の法令判例新刊雑誌室の資料も利用することができました。

私にとってサバティカルは、いつもの職場を少しの間離れ、異なる環境に身を置くことでリフレッシュできたこと、懸案であった博士論文の執筆を進めることができたことに、大きな意義がありました。このような制度があることに感謝するとともに、サバティカルのあいだお世話になった筑波大学や北海道大学の皆様に感謝したいと思います。サバティカルを認めてくださった先生方、不在のあいだ授業を交代して下さったり調整して下さった先生方、その他いろいろとサポートして下さった先生方・事務の方々、メールでの指導でもがんばって研究を進めてくれた学生さんたち etc.・・・ありがとうございました。

（むらい・まいこ 知識情報・図書館学類 講師）



札幌のシンボル、時計台



研究室（隣は図書室になっています）